

学修ポートフォリオ導入に向けた共通理解の促進策

大学情報システム研究委員会

1. シラバスを通じて学生に呼びかけるための工夫

ポートフォリオを導入している大学の課題として、導入1年目は比較的多くの学生が書き込みに参加するが2年目以降は減少傾向にある。その要因として、一つは、大学のオリエンテーションなどの機会を通じてポートフォリオの意義・役割、重要性について説明をしているが、学生はもとより教員、職員にも十分理解が得られていない。二つは、授業の中でポートフォリオを用いて最良の教育を提供していくという教員側の真剣な気持ちが伝わっていない。三つは、学生がポートフォリオに参加しても教員側からの確かなコメントなどのフィードバックが十分でないことがあげられている。

課題解決のためには、学士力を獲得する上で教員と学生の双方が信頼関係を醸成し、学生一人ひとりの学びに教員が的確に対応できるようにする仕組みが必要とされる。

学修行動を的確に把握するには、事前・事後学修の状況、教室授業の状況、学修上での不安や悩み、授業目標で掲げる達成度を真実に照らして自己点検・評価させることが、学士力を達成する上で大変重要であることをシラバスで気づかせることが必要である。その際、学生に自己点検・評価を通じて学びの振り返りの重要性を理解させ、習慣づけられるようにすることが肝要である。

それを効果的に行う手段として、振り返りを記録・蓄積して自己の判断や行動の適切性を分析するポートフォリオの活用が有効である。また、教員には、学力不足の学生には学びの不安の解消、優れた学生には発展的な学修の提供など学生一人ひとりに応じた学びを支援する手段としてポートフォリオの活用が不可欠となる。

教員側の真剣な気持ちを伝える方法として、例えばシラバスの中で振り返りの重要性を文章表現しただけではインパクトが弱いことから、映像や音声により手短かに臨場感ある形のマルチメディアで公開することが効果的と考える。学生目線に訴えられるようにすることが肝要であり、実際にポートフォリオに参加した学生の意見を踏まえて呼びかける方法や学生の声を直接紹介するなどの工夫が考えられる。

※ 以下に映像や音声を用いた語りかけについて、教員として配慮すべき点を掲げるので参考にいただきたい。

- 授業科目でどのような能力が身に付けられるのか、学士力の中での位置づけを明確にする。
- 毎週の授業でどのような能力、知識を身につけることができたのかを自己点検・評価することが大切であり、振り返ることで次の週の学びに向けて、学生はどのような学びの準備をしなければいけないのか気付くことができることを説明する。
- 振り返りは、社会人になって生涯にわたって様々な課題に向き合うときに、どのように判断し、どのように行動したらよいのか、考える手助けになるとともに人格形成にもつながることを説明する。
- 心の中に刻み込んで問題意識を持ち続けられるようにすることが大切であるが、そのために習慣づける手段として振り返りを記録することを通じて、学生自身が「できるようになったこと」と「できなかったこと」、授業や事前・事後学修での取り組み姿勢などについて気付くことができることを説明する。

※ 次に学生からの語りかけの事例を掲げるので参考にしていきたい。

【卒業生からの声】

大学院を卒業して社会人となり5年目を迎えようとしていますが、会社でも年間の行動目標などを自ら設定し、上司に評価を受けるという大学の「学年末の達成度自己評価」と同じような機会があります。

目標の設定や過去の反省は面倒で、意味のないものを感じるかもしれません。しかし、今の課題に対して目的や目標を明確にせず、受け身の姿勢で取り組んでは、面白みもなく自分自身の成長もありません。また、反省をしなければ同じ失敗を繰り返したりして、意欲も薄れてしまいます。

「一週間の行動履歴」や「学年末の達成度自己評価」は、自身を振り返り目的を持って主体的に物事に取り組むためのきっかけとなります。自ら進んで取り組むことで、新しい発見や楽しみが増えてくると思います。

【2年生からの声】

1週間の行動履歴や達成度評価ポートフォリオの作成を通して、日々の生活の見直しや改善、1年間の自己の成長を知ることができた。1週間の行動履歴では、1週間に行った学習や部活動、アルバイトなどに費やした時間を入力した。そのことにより、日々の時間の使い方や学習や部活動、娯楽の時間のバランスなどを振り返ることができた。またそれらを考慮し次週の目標を設定することで、より有意義な1週間を送ることにつながられた。達成度評価ポートフォリオでは、各科目の学生が達成すべき行動目標に対する反省を行うことができた。複数ある行動目標のそれぞれの観点からその科目を振り返ることで、達成できた点やできなかった点、その理由や改善点を明確にすることができた。また、それによって次学期の学習目標について考えることができた。これらのことから、1週間の行動履歴や達成度評価ポートフォリオの作成は、自身を見直し今度の目標、課題を考え学生生活をより充実させていくことにつながった。

2. 学士力の修得状況を自己点検できるようにするためのワークシートの構成とその例示

学生の学修行動をモニタリングしていくためのツールとして、「授業の進み具合を点検するワークシート」と「学修達成度を確認するワークシート」が必要となる。本来は全ての授業科目でワークシートの活用が望まれるが、学修ポートフォリオを導入する初期段階では学生や教職員の負荷を考慮し、当面は必修科目に限定することが得策と考えられる。

「授業の進み具合を点検するワークシート」では、授業の進捗状況に応じて学びの動向を仔細に点検できるように授業期間中に複数回行う必要がある。その際、基礎学力を測る汎用的な能力の修得状況について学修期間の前半に行うことが望まれる。修得状況に問題がある場合には改めて特別の学修支援プログラムを設ける必要がある。

「学修達成度を確認するワークシート」では、授業期間終了後に到達目標が達成できたか否か、単位を取得した場合でも到達度の能力を活用できる自信があるか否かを内心に照らして表現させることで、大学として質保証に向けた学修支援を徹底することが望まれる。

以下にワークシートに記載することが不可欠な要素について網羅的に掲載した。要素の組み合わせ及び追加などを行い授業の形態や目的に応じたワークシートを検討・作成されることを希望する。

「授業の進み具合を点検するワークシート」の要素

- **学修時間の把握**
例えば、個人・チームでの事前・事後の学修時間を記録させる。
- **知識・技能・態度の確認・定着**
例えば、教員側から知識・技能・態度の範囲を指定し、授業で学んだことや気付きなど修得した内容を自分の言葉で記述させる方法、技能・態度の Can Do リストで達成度を点検させる方法などで記録させる。
- **知識・技能の活用と知識の創造**
例えば、提示した課題についてレポートを提出させた上で、獲得した知識・技能を用いて社会や組織の課題との関連付け及び応用の可能性について考察ができるか否か、知識の統合化による考察ができるか否かを記述させる。
- **自主性及び主体性の確認**
例えば、事前・事後学修を行っているか記述させることで自主性の有無を確認させるとともに、次の学修行動に向けた準備を記述させるなど主体的な行動の有無を自己点検させる。また、チームで学修している場合には、考察プロセスの中で学生個人がどのような役割を果たしていたか、相互に協力して考察することができたか否か、多様な意見を取り入れて考察することができたか否か、チーム内外での相互評価などを記述させる。
- **ワークシートに対するフィードバック**
例えば、上級学年生などによるファシリテータからのコメント、担当教員からのコメント欄を設けておくことが必要である。

「学修達成度を確認するワークシート」の要素

- **授業の到達目標に対する達成状況**
例えば、単位を取得した場合でも学修到達目標の能力を卒業までの学修段階で活用できる自信があるか否か、卒業した後で活用できる自信があるか否かを正直に記述させる。
- **主体的な学修行動の確認・定着**
例えば、失敗・成功した学びの経験を記述させた上で、学士力の獲得に向けた次の学びのデザインを考えさせ、行動目標を記述させる。
- **ワークシートに対するフィードバック**
例えば、担当教員からのコメント欄を設けておくことが必要である。

ワークシートのイメージを理解いただくために、実際に使用されている「事前に課題本を読ませるワークシート」、「教養教育のワークシート」、「理系のワークシート」、「医療系のワークシート」の事例を6頁以降に掲げたので参照いただきたい。

3. 学士力の獲得に不安を抱える学生を対象とした学修支援方法の留意点

学修ポートフォリオで学生に学修の達成状況を真実に照らして記述することを求めているが、達成が思わしくない学生には大学として何らかの個別指導を行う仕組みを整備し、学生が安心して学びに向き合えるように学修支援の仕組みを構築しておくことが必要不可欠である。

学生一人ひとりの不安や悩みを把握し、必要に応じて面接を行うなど、組織的な対応をめざして情報共有を促進する必要がある。それには教員同士による連携体制の構築、ファシリテータによる助言などの仕組み、教職員一体となって取り組むための全学的なプランの策定などの整備が必要となる。

学生一人ひとりの学びに応じた支援として、「基礎学力不足」、「知識理解の不足」、「人間関係の悩み」、「各種障害」など、学生が抱える不安や悩みのタイプに応じた対応策を大学として備えていることが前提となる。例えば次のようなことが考えられる。

- ・ **基礎学力が不足する学生**には、例えば、大学として補習授業を提供し、授業目標が達成できるようファシリテータと担当教員との連携によるきめ細かな助言・指導が必要となる。
- ・ **知識・理解が不足する学生**には、例えば、学内ネット上での授業録画による学び直し、eラーニングによる個人学修の徹底、ファシリテータの助言などの仕組みが必要となる。
- ・ **友人がいないなど人間関係に悩みを持つ学生**には、例えば、上級学年生から学内ネット上で励ましや学修相談を行い、その対応状況を大学が特定する教員・職員・ファシリテータで共有し、連携して対応策を考え、孤立させないように支援する仕組みが必要となる。
- ・ **発達障害などの学生**には、例えば、大学としてや心理カウンセラーなどの専門家によるアドバイスによる指導を行い、学生に応じた支援方法を提供することが必要となる。なお、障害の程度によりチーム学修が困難な学生には、学内ネット上での学びの仕組みを通じてチーム学修に参加できるようにする必要がある。

以上の学修支援を効果的に進めるためには、教員・職員としての職務規範を充実し、全学あげて学生一人ひとりが安心して学修を受けられるよう、FD・SDの研修を徹底する必要がある。

4. 振り返りに対する教員のコメントをフィードバックする際の留意点

学修ポートフォリオが持続的に使用されない大きな要因の一つとして、学修記録の内容や振り返りに対して教員が速やかにコメントなどのフィードバックをしていないことが指摘されている。フィードバックが行われていない状況として、コメントの表現をどのように考えるべきか、速やかにフィードバックすべきか否かタイミングなどの問題がある。このような現状認識に立ち、コメントの内容について、学修者一人ひとりへの対応と学修者全員に共通する対応、授業期間中に対応できること授業期間終了後の対応、大学全体で対応すべきことなどを踏まえて検討する必要がある。

以下にコメントの表現・タイミングを想定した対応の留意点について整理したので参考にさせていただきたい。

- ・ **授業期間中でのコメントの仕方**としては、授業で工夫できる内容であれば学修者全員にネットで周知し、教員と学生との信頼関係をできるだけ早く築くようにすることが重要である。学修者一人ひとりが抱える不安や悩みへのコメントは、例えば基礎学力が不足する学生、知識・理解が不足する学生、友人がいないなど人間関係に悩みを持つ学生、発達障害などの学生に応じて担当教員として助言できるか否かを判断した上で、対処方法を案内することが望まれる。そのようなケーススタディに応じた対処の仕方については、教職員一体となってFD・SDなどで検討していくことが必要であろう。
- ・ **授業期間終了後でのコメントの仕方**としては、他の授業関連科目との調整、授業方法・シラバスの再構築、対話学修・体験学修・ICTを駆使した学修など授業環境の整備、ファシリテータによるきめの細かい学修支援の整備などの課題が想定されるので、学生には問題の重要性を認識していることについてフィードバックする程度に留めておくことが適切と考えられる。
- ・ **大学全体でのコメントの仕方**としては、すぐにコメントを返すことができないので、問題の重要性に応じて大学としての課題となることを教員個人の気持ちとしてフィードバックすることが望まれる。しかし、財政・教育政策・組織の再編・構築に絡む時間のかかる問題への対応は、組織的な課題であるとのコメントに留めておくことが適切ではないであろうか。

以上のコメントのフィードバックに際して教員が配慮すべきこととして、学修ポートフォリオで意見を表明した内容が学生の不利益にならないように予めシラバスの中で明示しておくなどの工夫が望まれる。また、ポートフォリオの内容が他者から安易に閲覧できないようにするため利用できる範囲や権限について学内で十分に検討し、判断基準を設けておく必要がある。

大学情報システム研究委員会委員名簿

(平成27年3月現在)

	氏名	大学・企業名	所属
担当理事	疋田 康行	立教大学	経済学部教授
委員長	岩井 洋	帝塚山大学	学長
委員	片岡 竜太	昭和大学	歯学部教授
〃	杉山 由紀男	創価大学	教務部副部長、文学部教授
〃	小川 賀代	日本女子大学	理学部数物科学科准教授
〃	藤本 元啓	金沢工業大学	入試部長、基礎教育部教授
アドバイザー	森本 康彦	東京学芸大学	情報処理センター准教授
〃	小松 大	株式会社朝日ネット	営業二部部長
〃	加藤 博文	株式会社ニッセイコム	公共情報事業本部部長
〃	奥出 健太郎	株式会社富士通マーケティング	文教第二ソリューション部

関連資料2
【教養教育のワークシート】

コミュニケーション実践学Ⅱ（対人世界の心理学）

科目の紹介

基本情報	平成 25 年度・教養教育・前期		曜日・校時	
モジュール名	コミュニケーション実践学		科目名	対人世界の心理学
教員名（所属）	山地弘起（大学教育機能開発センター）		教室	
選択者数	30名	2年生の所属学部	教育学部	経済学部
再履修数	0名		(17名)	(13名)
授業のねらい：(学生向けに)				
<p>皆さんは、例外なく、他の人間たちのなかで生まれ、育ち、今に至っている筈です。周りを見渡せば、親密な関係（家族など）もあれば、生活の一部での関係（クラスメイトなど）やごくわずかな一方的な関係（テレビを通してなど）もあるでしょう。上下関係や年齢に応じた立場や役割に気づくこともあるでしょう。さらには、故人や先祖とのつながりを感じることもあるかもしれません。好き嫌いや相性といったもので、付き合い方を変えていることもあるかもしれません。我々は皆、そうした様々な質に彩られた関係の網目のなかで日々を過ごしています。と同時に、各自の認知機能や性格傾向などにおいて、その多くの部分は、これまでの対人関係の所産といえます。発達過程における対人関係の重要性を、強調しすぎることはできません。そして今後、さまざまな場で相互にケアし合える関係を構築していくことは、次世代への重要な責任の一つといえるでしょう。そこで本科目では、①自分の対人世界のありようを意識化する、②対人関係スタイルの成り立ちを吟味する、③互いの成長を支え合う関係構築の方法を模索する、の3つのねらいを設定します。</p>				
アクティブラーニングに向けて工夫した点：				
<p>学部および性別混成のホームグループを構成した。内容面ではまず、自己理解の体験学習を含めながら、関連した代表的な考え方を検討した。その後、教科書を授業外の時間で学習し、いずれか1つのテーマでジグソー学習のリーダーを務め、グループ・プレゼンテーションを行うことを求めた。学習内容を個人的記憶と関連付け、消化を促すためにメモリーワークも含めた。</p> <p>授業外学習を促進するために、資料要約やライティングなどの基本技能の学習にも時間をとった。</p>				

授業ワークシート（平成 25 年度「対人世界の心理学」） 記入月日：____月____日

学生番号：_____ 氏名：_____ 学部：_____

I 今回の授業を通して、とくに学んだこと・考えたことを具体的に記入して下さい。

II 今回のグループ活動に関して、以下の各項目に自分がどの程度あてはまるか、○印で囲んで下さい。

	あてはまらない	ややあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる
1. 自分の伝えたいことを十分述べる事ができた・・・	1	2	3	4	5
2. 他の方の考えや意見を十分聴く事ができた・・・	1	2	3	4	5
3. 他の方は自分の言ったことを十分聴いてくれた・・・	1	2	3	4	5
4. グループに十分参加する事ができた・・・	1	2	3	4	5
5. グループに十分貢献する事ができた・・・	1	2	3	4	5

III グループ活動のなかで、自分のコミュニケーションの傾向について気づいたことがあれば記入して下さい。

IV グループ活動のなかで、他のメンバーの貢献について何か気づいたことがあれば記入して下さい。

V その他、今回のグループ活動から学んだこと・気づいたことがあれば記入して下さい。

関連資料3
【理系のワークシート】

理系/授業ワークシート（講義編）

1. 前回の授業内容について復習してきましたか。

- a. はい(分) b. いいえ

2. 今日の授業で習得した内容（現象、式、手法等）は何ですか。

解答例：光の性質（波動性と粒子性）

3. 今日の授業で理解できなかった内容（現象、式、導出過程等）は何ですか。

解答例：マクスウェル方程式の導出過程

4. 3の内容は自力で理解できると感じますか。それは、どのくらいの時間が必要だと思いますか。

- a. はい b. いいえ
復習時間()分

5. 理解するための努力は何をすれば良いと感じますか。

- a. 友達と勉強する b. 演習問題を解く c. 過去の分野（数学含む）を復習する
d. 関連知識を調査する e. 先輩に聞く f. 先生に聞く
g. どこから手をつけていいかわからない h. その他（ ）

6. 今日学んだ内容はどのような分野に関連していると感じますか。また、どのような分野に応用できると感じますか（調査して書いてもよい）。

解答例：××方程式は望遠レンズ設計の際に使用できると思う。

理系/授業ワークシート（実験編）

1. 実験テキストを読んできましたか。

- a. はい b. いいえ

2. 実験の目的は理解できましたか。

- a. はい b. いいえ

3. 実験の原理は理解できましたか。

- a. はい b. いいえ

4. 班で協力できましたか。また、あなたは班の中でどのように行動し協力できましたか。具体的に書きなさい。

- a. はい b. いいえ

5. 実験中の問題点を挙げ、それが起こった原因とどう改善したかを述べてください。

6. 講義で学ぶだけでなく、実験を通して理解が深まった事や感動した結果は何ですか。

7. 今回の実験を通して次回の実験で活かしていきたい点は何ですか。

ポートフォリオの活用について



1. ポートフォリオの教育的意義について

1) 授業前に目標を設定し、授業後にふりかえりを行う習慣をつけさせることで、自己評価と能動学習ができる学生を育成する。2) 「超高齢社会に対応できる歯科医師」になるという目的に対して、Step1(3年生)、Step2(4年生)、Step3(5年生)で3年間にわたり学修を行うが、最終的な目標に向かって、学んだ事を常に活かしていくためにポートフォリオを活用する。3) 特に臨床において学ぶ際に、態度や技能も含む到達度の自己評価能力を養成する。

2. ポートフォリオの様式について

1) 「目標書きだし」「ふりかえり」「成長報告書」に関しては、Step1(3年生)、Step2(4年生)、Step3(5年生)同じ用紙(ファイル)を用いて、容易に過去を振り返れるようにする。2) 授業に際しては「授業報告書」を同じテーマの一連の授業が終わった際に、学んだ事の要点を書く。3) 臨床実習に関しては、症例の概要、情報収集に際して留意したこと、実施した診療について、実施の際に留意したことを「臨床実習報告書」に印象に残った経験を「SEA(有意事象分析)ふりかえりシート」に記入する。

3. ポートフォリオの運用について

1) 電子ポートフォリオを活用するかあるいはワードファイルを他の方法で提出する。

コース: 口腔医学とチーム医療

目標書き出しシート

Step1(3年生)

番号

氏名

この授業における「自分の目標」(先ずはどんでん書き出してください)

「超高齢社会で活躍する歯科医師になるために何を学ぶべきか？」

① できるようになりたいこと ② 知りたいことなど

今回の授業達成したい目標を「具体的」に挙げていきましょう。

Step2(4年生)

Step1の授業で学んだ内容も振り返って、この授業における「自分の目標」を書き出してください。「超高齢社会で活躍する歯科医師になるためにさらに何を学ぶべきか？」

今回の授業で達成したい目標を「具体的」に挙げていきましょう。

Step3(5年生)

Step1, 2の授業で学んだ内容も振り返って、学んだ内容を臨床に应用する際の「自分の目標」を書き出してください。

コース:口腔医学とチーム医療

番号 氏名

ふりかえりシート

Step1(3年生)

1. 教育目標のうち達成できたもの ①あなたは超高齢社会で活躍する歯科医師になるために、この授業を通じて何を学びましたか？	2. 改善すべきと考えること ①あなたが今後の学習において、改善すべき点はどのような点ですか？
3. 今の気持ち・感情	4. 超高齢社会で活躍する歯科医師になるために、今後何を学ぶべきですか？

Step2(4年生)

1. 教育目標のうち達成できたもの ①あなたは超高齢社会で活躍する歯科医師になるために、この授業を通じて何を学びましたか？	2. 改善すべきと考えること ①あなたが今後の学習において、改善すべき点はどのような点ですか？
3. 今の気持ち・感情	4. 超高齢社会で活躍する歯科医師になるために、今後何を学ぶべきですか？

Step3(5年生)

1. 教育目標のうち達成できたもの ①あなたは超高齢社会で活躍する歯科医師になるために、この授業を通じて何を学びましたか？	2. 改善すべきと考えること ①あなたが今後の学習において、改善すべき点はどのような点ですか？
3. 今の気持ち・感情	4. 超高齢社会で活躍する歯科医師になるために、今後何を学ぶべきですか？

コース:口腔医学とチーム医療

番号 氏名

成長報告書

Step1(3年生)

成長したことベスト3 1. 2. 3.
ここで得たことを、Step2(4年生)でどう活かしますか？ いつ・どこで・どんな状況で・誰にどのように・・・具体的にイメージして書いてください

教員からのコメント(サイトからコピーしてください)	印
---------------------------	---

Step2(4年生)

成長したことベスト3 1. 2. 3.
ここで得たことを、Step3(5年生)でどう活かしますか？ いつ・どこで・どんな状況で・誰にどのように・・・具体的にイメージして書いてください

教員からのコメント(サイトからコピーしてください)	印
---------------------------	---

Step3(5年生)

成長したことベスト3 1. 2. 3.
ここで得たことをどう活かしますか？ いつ・どこで・どんな状況で・誰にどのように・・・具体的にイメージして書いてください

教員からのコメント(サイトからコピーしてください)	印
---------------------------	---

コース:口腔医学とチーム医療

授業報告書

Step1

番号 氏名

「口腔乾燥症」患者の発症原因、口腔内症状、治療についてどのように理解したか？(WG1)
基礎疾患を有する高齢者に対して、歯科診療を行う際に配慮すべき事は何か？(WG2)
急性期・回復期のチーム医療についてどのように理解したか？(WG3)
1. 高齢者の心身の特徴および高齢者に多い疾患と死因についてどのように理解したか？(WG4)
2. 基礎疾患を持つ高齢者の診療に際し地域連携医療を担う歯科医師の役割についてどのように理解したか？(WG4)

Step2

「口腔乾燥症」患者の発症原因、口腔内症状、治療についてどのように理解したか？(WG1)
基礎疾患を有する高齢者に対して、歯科診療を行う際に配慮すべき事は何か？(WG2)
急性期・回復期のチーム医療についてどのように理解したか？(WG3)
1. 高齢者の心身の特徴および高齢者に多い疾患と死因についてどのように理解したか？(WG4)
2. 基礎疾患を持つ高齢者の診療に際し地域連携医療を担う歯科医師の役割についてどのように理解したか？(WG4)

コース:口腔医学とチーム医療

臨床実習報告書

Step3(5年生)

番号 氏名

1. 症例の概要(年齢、性別、主訴、基礎疾患、服薬状況……)
2. 情報の収集に際して留意したこと
3. 実施した診療について
4. 診療を実施するに際して留意したこと

資料提供：昭和大学歯学部教授
片岡竜太 氏